

## 第5回西脇小学校校舎基本計画専門部会会議録

- ◇日 時 平成26年11月14日(金) 14:00～16:00
- ◇場 所 マナビータ会議室 1
- ◇出席者 検討委員；足立 裕司、足立 博、石塚喜行、難波 尚  
事務局；森脇 達也、池田 正人  
傍 聴 者；3人
- ◇配布資料 ・西脇小学校校舎基本計画専門部会（第5回）次第  
・敷地平面図

### ◇議事要旨

#### 1. 開会

#### 2. 議事

##### (1) 委員会での検討報告

- ・この間に検討委員会で配布した資料を確認し、検討した内容を共有した。
- ・委員会では、木造校舎の耐震強度や設備については改善できるということを伝えた。バリアフリーについても対策を提案している。木造校舎の音の問題は、RC校舎には及ばないものの教室の配置や床材の検討により改善が可能という報告を行っている。

委 員： 1棟保存の場合、次回以降も議論は続くのか。

部会長： 管理や利用方法については更なる検討が必要なので、追加で開催が必要。木造3棟保存の場合は、設計についてなど次のステップに移っていくことになる。すべて改築の場合、出来具合は設計次第なので、条件のつけ方などを検討する必要がある。木質の仕上げとなると財政面での負担が大きく、委員会の範疇を超えてしまうので悩ましい。

アンケート結果から読み取れることが多い。高齢の方が建て替えの意向が強いようだ。若いの方が保存意向が強く、関心の高さが伺える。

## 第5回西脇小学校校舎基本計画専門部会会議録

### (2) 応急耐震補強の方針について（与条件の方針について）

難波委員から、応急耐震補強についての追加検討結果の報告があった。

- ・ 固定荷重を精査すると地震荷重が低減でき、外壁の補強を0.7～0.68倍に減らすことが出来る。
- ・ 外力の精査をした結果、保有性能が以前行った耐震診断の報告書の診断値の1.4倍に上がった。
- ・ 性能は上がったもののそれでも診断値としては、0.25程度で依然として低いものである。
- ・ 教室棟3の1階梁間方向の診断値が一番低く、0.19となっている。
- ・ 教室棟3の診断値が低い理由は、大きな面積を有する職員室があり壁が偏在していること、職員室の妻面に開口が設けられており耐力を低減していることによる。
- ・ 教室棟3、4の桁行に関しては安全側に見ているので、もう少し診断値が上がるかもしれない。
- ・ 本補強までの現状での使用期間が短ければ、あえて応急補強をしなくてもよいのではないかと。
- ・ 応急補強をする場合は、本補強の手順を考慮して必要性に応じた応急補強が可能である。
- ・ 他の事例として篠山小以外の木造小学校の事例を参照する必要がある。
- ・ 木造の応急補強はオーソライズされているものではなく、個別に判断が必要である。
- ・ 一律な目標値を設定するというのは合理性に欠くため、応急補強であることを考慮して必要に応じた優先順位を設定して補強設計を進めてはどうか。
- ・ 具体的には、予算の状況にもよるが1階の耐震強度について、IW値0.7確保をするという方針ではどうか。
- ・ 補強方法は、既存の耐力壁ではなく開口部に丸鋼ブレースをボルトで固定する方が合理的であろう。
- ・ 目標値は、現在動的解析のシミュレーションを準備中で、その結果を踏まえて決定すればいい。

足立委員から木造校舎の応急補強工事について、加西の西在田小学校の事例紹介があった。

- ・ 取り壊しまでの間、開口部にブレースで耐震補強していた。
- ・ 床も弱っているため、どうしても必要とのことだった。
- ・ 建物との接合部分はプレートになっており、いろいろと工夫されている。
- ・ 梁の仕口があるところに接合されているのではないかと。
- ・ 金物は変形の平板に穴をあけてターンバックルを固定している。鉄板自体は厚いものを使用している。
- ・ 1階は土台と柱に固定、2階は柱と梁の両方に固定されている。接合部は壁面から浮かせるほど、ねじれが心配だが、崩壊を止める役目は果たすだろう。

部会長： 木造校舎を保存する場合、応急補強工事と本改修工事のスケジュールはどうか。

事務局： 本改修工事は、27年度に基本計画づくり、建て替えは28年度の後半からになる。応急耐震補強は27年度に設計し、後半に施工。

部会長： 本改修工事は棟ごとに順番に進めるので、一番性能が弱い棟から着手すると効率がいい。今日も小学校を見てきたが、北棟は床もしっかりしていて剛性が高かった。

既に一度委員会に報告している案件であるので、本改修工事にすぐに着工する場合は応急補強工事は見送り、それ以外の棟はしっかり補強する、という修正事項として報告したい。

## 第5回西脇小学校校舎基本計画専門部会会議録

### (3) ボーリング調査実施の与条件の確認について

石塚委員から、ボーリング調査の見積もりについて情報提供があった。スクリュードライバーサウンディングを実施してから、その結果に応じて本格的なボーリングの場所と調査箇所数を決定し、実施してはどうかという提案があった。

資料の図面について、事務局から説明があった。

部会長： まず図面については最新のものではなく、現在とは地盤高も異なる部分があるようだ。数十センチの誤差があると思う。

ボーリング調査は、保存にしても改築するにしても必要な調査なので、確実に実施しておいた方がいい。特に敷地南側が心配。地盤は基本的に良好そうだが、道路際と東側の際は切り土なのか確信が持てない。また敷地が大きいので4箇所は必要か。

スクリュードライバーサウンディングを少なくとも6箇所程度実施後、必要に応じて石塚委員の提案の通り本格的なボーリング調査を行うこととしたい。

### (3) 来年度の計画について

部会長： 専門部会の役割は一通り終えたと思っている。今後は委員会での検討状況に応じて、新たな体制を発足することになる。場合によっては、ボーリングの結果について確認する機会を設けるかもしれないし、メール審議もあり得る。必要に応じて再招集や新規発足をしていく。

### (4) その他

部会長： 委員会の結果はメールでお知らせする。

以上